

平成 24 年度
(第 2 期)
事業報告書

自 2012 年 1 月 1 日
至 2012 年 12 月 31 日

一般財団法人 杉浦地域医療振興財団

I. 事業の概要

1. 主な活動の概況

平成 23 年 9 月 1 日に本財団を設立し、平成 24 年度は初めて 1 年間継続した活動を実施いたしました。

超高齢社会における地域医療振興という現在最も大きなテーマの 1 つに対応することができたことは、関係者各位のお陰と感謝しております。何事も初めてのことが多く、関係する皆様にご迷惑をおかけすることもあったのではないかと思います。

今後も実施できる事業の拡大に努め、地域貢献という意味合いをより強めていきたいと考えています。また、一般公開セミナーを開催することにより、地域に住む方々への啓発活動にも力を入れていく必要があることもわかりました。

今回、1 年間を通じて初めての事業報告を提示することが適いました。皆様に感謝を申し上げます。

さて、本年度の事業計画の柱として掲げました下記 3 つの事業について、報告いたします。

(1)地域医療の振興に関わる活動等に対する助成と褒賞(定款第 4 条第 1 項第 1 号)

前年度に募集を開始した「杉浦地域医療振興助成金」(以下「杉浦助成金」という。)、 「杉浦地域医療振興賞」(以下「杉浦賞」という。)の第 1 回選考と贈呈そして授与式を開催し、また、第 2 回の募集の準備を行いました。

(2)地域医療の振興に係る社会実験への助成、参画(定款第 4 条第 1 項第 2 号)

本財団としての地域医療連携モデルの構築と社会実験に向けての「都市型の看護介護医療等連携研究会」を発足して 8 回研究会を開催いたしました。

(3)その他前条の目的を達成するために必要な事業(定款第 4 条第 1 項第 6 号)

一般市民向け公開セミナーを年 2 回名古屋と東京で開催いたしました。

2. 決算の概況

(1) 正味財産増減計算書

経常収益は予算 32,917,600 円に対して実績 93,236,434 円(予算対比 64,318,834 円超過)、経常費用は予算 46,451,740 円に対して実績 65,101,069 円(予算対比 18,649,329 円超過)となりました。内訳は、事業費が 50,337,191 円(予算対比 10,970,191 円超過)、管理費が 14,763,878 円(予算対比 7,679,138 円超過)となりました。いずれも、予算を大きく超過しましたが、その理由については、後述の事業報告及び事務報告で詳しく説明します。

その結果、当期経常増減額は予算△13,534,140 円に対して実績 32,135,365 円(予算対比 45,669,505 円超過)となりました。

これから、税金を控除した結果、当期一般正味財産増減額は 32,001,826 円となり、期首残高 24,709,622 に加えると一般正味財産期末残高は 56,711,448 円となりました。

指定正味財産については、当期中に基本財産として受け入れた投資有価証券が 21,095,052,372 円、ピンクリボン基金への寄附金収入が△1,091,811 円あったことから、指定正味財産期末残高は 21,046,360,171 円となりました。

以上の結果、正味財産期末残高は 21,103,071,619 円となりました。

(2) 貸借対照表

資産、負債の状況は、現金及び預金等の流動資産は 49,890,713 円、固定資産では、今期に受け入れたスギ商事の優先株及び基本財産として受け入れた寄附金を運用した投資有価証券が 21,044,647,672 円、用途を限定した特定資産としてピンクリボン基金が 1,812,160 円、その他の固定資産として、会計ソフトのソフトウェアが 324,300 円、設立時のその他財産を運用した投資有価証券が 10,099,300 円となり、資産合計は 21,106,774,145 円となりました。

負債については、事務局員の人件費等の未払金 3,601,936 円等で 3,702,526 円となりました。

(3) 収支計算書

事業活動収支の内、事業活動収入は基本財産の運用による利息収入 110,000 円、杉浦ご夫妻からの寄附金 33,000,000 円、個人からの寄附金 30,000 円、ピンクリボン基金への寄附金 2,409,218 円、一般

財産の運用利息 113,890 円等の合計で 35,663,443 円(予算対比 254,157 円超過)でした。

一方、事業活動支出は、助成・褒賞やセミナー等の事業に直接関連する費用である事業費支出が 50,337,191 円、役員報酬、広告宣伝等の管理運営に関する費用である管理費支出が 14,679,278 円の合計 65,016,469 円でした。正味財産増減計算書同様大幅な予算超過となりましたが、その理由については、後述の事業報告及び事務報告で詳しく説明します。

その結果、事業活動の収支差額は△29,486,565 円(予算対比△18,967,025 円不足)となりました。

また、投資活動収支は、スギ商事の優先株に係る配当(会計上はスギ商事のその他資本剰余金からの配当であるので、基本財産の取り崩しとして処理)として 60,504,000 円、ピンクリボン基金の取り崩しによる支払 1,284,865 円、ピンクリボン基金に 193,415 円振替えたことから、収支は 61,595,450 円となりました。

以上の結果、当期収支差額は 32,108,885 円となり、これに前期からの繰越収支差額を加えると、今年度の次期繰越収支差額は 46,188,187 円となりました。

II. 事業報告

1. 地域医療振興に係る助成・褒賞事業

(1) 地域医療の振興に関わる活動等に対する助成

[第1回助成事業]

助成の対象	地域医療振興の分野で、優れた活動や研究を行っている個人・団体に対して、今後より有意義な活動や研究の成果を期待して助成金を付与する
助成の内容	「杉浦地域医療振興助成金」(以下「杉浦助成金」という。)として個人・団体に対して各 500 万円を上限として助成 総額 1,500 万円以内 助成金交付時期 平成 24 年 6 月
募集	学会、特定団体及び一般紙を利用して候補を募集し、選考委員会で決定。 募集期間 平成 23 年 12 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日 結果、89 件の応募がありました。
選考	選考委員会を設立して、2ヶ月をかけて7件(総額1,480万円)を選定いたしました。
その他	平成 24 年 9 月 5 日、帝国ホテル東京にて、第 1 回杉浦地域医療振興助成、授与式を開催いたしました。 平成 25 年 7 月 4 日には、1 年間の活動や研究成果を発表することを予定。

(2) 地域医療の振興に関わる活動等に対する褒賞

褒賞についても、助成同様に計画通り下記内容で募集を実施しました。

[第1回褒賞事業]

褒賞対象	地域医療振興の分野で、顕著な業績をあげ、継続して活躍中の個人・団体
褒賞の内容	「杉浦地域医療振興賞」(以下「杉浦賞」という。)として個人・団体を褒賞 正賞 楯(予算 10 万円以内)、副賞 金 300 万円を上限として、総額 1,500 万円以内

募集	学会、特定団体及び一般紙を利用して候補を募集し、選考委員会で決定。 募集期間 平成 23 年 12 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日 結果、35 編の応募がありました。
選考	選考委員会を設立して、2 ヶ月をかけて 4 編(各 300 万円、総計 1,200 万円)を選定いたしました。
その他	平成 24 年 9 月 5 日(水)に表彰式を実施

結果として、褒賞金は予算 1,500 万円に対して、1,200 万円となりました。

なお、これに係る費用については、今回が第1回の募集であるため、本財団の認知度も低く、応募が低調に終わることも懸念されることから、追加的に広報活動を実施し、専門誌及びネット広告等に広告宣伝費として 971,000 円を追加しました。

第 1 回の助成・褒賞の発表にあわせて、その内容をまとめた報告書を作成しました。「第 1 回 杉浦地域医療振興賞・杉浦地域医療振興助成報告集」(別紙 1)を作成いたしました。費用は、予算 650,000 円に対して実績 669,500 円でした。

また、助成・褒賞の選考のために、下記選考委員会を組成しました。

[第 1 回選考委員]

役名	氏名	略歴
委員長	伴 信太郎	名古屋大学附属病院総合診療科教授
委員	網岡 克雄	金城学院大学 薬学部医療薬学教授
〃	雨師 みよ子	(社)大阪府看護協会訪問看護事業部長 全国訪問看護事業協会理事
〃	井伊 久美子	社団法人日本看護協会常任理事
〃	上野 桂子	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 理事 社団法人 全国訪問看護事業協会 常務理事
〃	遠藤 英俊	独立行政法人国立長寿医療研究センター 内科総合診療部長
〃	岡田 啓	スギ薬局グループ薬事研修センター長 元愛知医科大学教授兼薬剤部長

役名	氏名	略歴
〃	葛谷 雅文	名古屋大学大学院医学系研究科発育・加齢医学講座 地域在宅医療学・老年科学分野 名古屋大学医学部附属病院・老年内科 教授
〃	坂巻 弘之	名城大学薬学部臨床経済学教室 教授
〃	塩川 満	総合病院 聖隷浜松病院(地域医療支援病院) 薬剤部 長
〃	白澤 政和	日本学術会議会員 桜美林大学大学院老年学研究科 教授
〃	高瀬 義昌	医療法人社団 至高会 たかせクリニック 理事長 財団法人 日米医学医療交流財団 常務理事
〃	山本 陽子	株式会社ケア・ビューティフル 代表取締役

(注)選考委員長を除いて五十音順に配列

[第2回選考委員]

前記第1回の選考委員に下記の追加、辞退を行いました。

(追加)

委員	田中 雅子	社会福祉法人 富山県社会福祉協議会 富山県福祉カレッジ 教授
委員	安藤 明夫	中日新聞 医療担当編集委員

(辞退)

委員	坂巻 弘之	名城大学薬学部臨床経済学教室 教授
----	-------	-------------------

(3) 地域医療連携モデルの構築と社会実験に向けての研究会

地域医療の振興に係る社会実験への助成、参画(定款第4条第1項第2号)に基づく事業の一つとして、「都市型の看護介護医療等連携研究会」を組成しました。都市に住む高齢者が、今までの地域で住み続けることを前提として支援するための多職種協働(特に看護介護医療連携)のあるべき姿について、提言をまとめること。また、急激な高齢化に対応する、安心して生活できる普遍的な都市(東名阪)モデルの構築を目指すあるべき姿を趣旨としました。

今年度は、4月より月1回、年間8回研究会を開催いたしました。

会場は第1回を八重洲富士屋ホテル、2回以降を東京ステーションコンファレンスとし、開催時間を2時間として、ゲストによるプレゼンテーションとディスカッションを行い、議事録をまとめ、問題点の集計をいたしました。

各回のテーマとゲストスピーカーは下表の通りです。

第1回	あるべき姿の議論 ～課題と問題点を中心に～	宮島 俊彦	前 厚生労働省 老健局長
第2回	地域包括ケアと課題	田中 滋	慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 教授
第3回	都市で高齢者が生活する住環境のあり方について	橋本 俊明	一般財団法人サービス付き高齢者向け住宅協会 会長
第4回	都市の変化と医療の動向について	長谷川 敏彦	日本医科大学 教授
第5回	介護保険 何が問題か?都市で機能する為に何が必要か?	高橋 紘士	国際医療福祉大学大学院 教授
第6回	都市部での介護保険のあり方	池田 省三	龍谷大学名誉教授 地域ケア政策ネットワーク研究主幹
第7回	公開セミナー「超高齢社会における地域医療連携」	大島 伸一	独立行政法人国立長寿医療研究センター 総長
		宮島 俊彦	前 厚生労働省 老健局長
		秋山 弘子	東京大学高齢社会研究機構 特任教授
		田中 滋	慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 教授
		新田 國夫	医療法人社団つくし会 理事長
		秋山 正子	白十字訪問看護ステーション 代表取締役 統括所長
		小山 剛	社会福祉法人 長岡福祉協会 理事・評議員・執行役員 高齢者総合ケアセンターこぶし園 総合施設長
第8回	都市部での社会福祉経済	大木 一正	有限会社 クリーン薬局 代表取締役
第9回	訪問看護	岩尾 聡士	名古屋大学大学院 経済学研究科 教授
		齋藤 訓子	公益社団法人日本看護協会 常任理事
第10回	人口減少時代の大都市経済	佐野 けさ美	日本在宅看護学会 副理事長
		松谷 明彦	政策研究大学院大学 名誉教授 元大蔵省主計局主計官 大臣官房審議官

※平成25年1月10日に第9回、平成25年2月7日に第10回を開催しています。今後も継続開催を予定しています。

また、研究会のメンバー並びにオブザーバーの一覧は下表の通りです。

研究会での役割	氏名(敬称略)	所属・役職
座長	大島 伸一	独立行政法人 国立長寿医療研究センター 総長
副座長	秋山 正子	白十字訪問看護ステーション 代表取締役・ 統括所長
副座長	小山 剛	社会福祉法人 長岡福祉協会 理事・評議 員・執行役員 高齢者総合ケアセンターこぶし園 総合施設 長
アドバイザー	田中 滋	慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 教 授
アドバイザー	辻 哲夫	東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教 授
アドバイザー	齋藤 訓子	公益社団法人日本看護協会 常任理事
	阿部 智子	訪問看護ステーション けせら 管理者
	宇都宮 宏子	在宅ケア移行支援研究所 代表
	大澤 光司	株式会社 メディカルグリーン 代表取締役社 長
	川越 正平	あおぞら診療所 院長
	小玉 剛	こだま歯科医院 院長
	椎名 美恵子	有限会社 ふれすか 訪問看護テーステーシ ョン みけ 代表
	高砂 裕子	社団法人 南区医師協会 南区メディカルセン ター 訪問看護ステーション 管理者
	長尾 和宏	医療法人社団 裕和会 長尾クリニック 理事 長
	中澤 明子	社会福祉法人 せんねん村 総合施設長
	新田 國夫	医療法人社団つくし会 理事長
	野中 博	野中医院 院長

研究会での役割	氏名(敬称略)	所属・役職
	長谷川 宜史	社会福祉法人 高浜市社会福祉協議会 事務局長
	馬袋 秀男	株式会社ジャパンケアサービスグループ 代表取締役社長兼 CEO
	藤田 正之	医療法人 仁医会 常務理事 法人本部長
	船木 良真	三つ葉在宅クリニック 理事長
	宮路 博	社会福祉法人 京都福祉サービス協会 居宅本部長
	山村 由美子	社会福祉法人 長岡福祉協会 高齢者総合ケアセンターこぶし園 24時間ケアサービスステーション リーダー

(会員は五十音順)

研究会での役割	氏名	所属・役職
オブザーバー	木全 真理	東京大学高齢社会総合研究機構特任研究員
	佐野 けさ美	スギメディカル株式会社 介護支援運営部 部長
	高瀬 義昌	医療法人社団 至高会 たかせクリニック 院長
	田村 多真美	株式会社 スギ薬局 医療営業統括部 薬剤師
	辻 哲	ヘルスケアパートナーズ株式会社 顧問
	日栄 優	社会福祉法人 京都福祉サービス協会 西京事務所 所長
	久常 節子	前 公益社団法人日本看護協会 会長
	宮島 俊彦	前 厚生労働省 老健局長
	森 貞述	介護相談・地域づくり連絡会 会長(元 高浜市長)
	吉井 靖子	社会福祉法人 長岡福祉協会 高齢者総合ケアセンターこぶし園 介護・看護部長
	吉江 悟	東京大学高齢社会総合研究機構特任研究員

2. ピンクリボン基金事業

下記内容のスギピンクリボン基金も計画通り設立しました。

基金の目的	地域の生活者向けに、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療を目指した運動を行うための基金を設立し、寄附金を募って活動資金とする。
寄附金募集の方法	ホームページにて呼びかけ
活動内容	一般公開の講演会の開催 啓発リーフレットの作成・配布 乳がん克服の体験記の出版 予算は来年度予算で計上
その他	ピンクリボン運動に賛同する行政や団体の協力を要請し、より多くの方の啓発に努める

本年度は、2,409,218 円がスギホールディングス(株)より寄付されましたが、予算 300 万円に対しては 590,782 円の未達となりました。

また、ピンクリボン書籍(乳がん克服の体験記)発刊の費用として、今期は 1,284,865 円を目的使用いたしました。

3. その他の事業

(1) 地域医療連携に関する一般公開セミナーを平成 24 年 7 月 15 日(日)に名古屋大学豊田講堂にて名古屋大学病院と共催し、1,000 名以上の一般市民の皆様が参加しました。当日の内容は、読売新聞に掲載いたしました。その詳細は別紙 2 をご参照ください。

これに要した費用は 2,384,743 円でした。

(2) 都市型の看護介護医療等連携研究会の中間報告も兼ねて、300 名以上の医療介護従事者及び一般市民の方が参加していただき、セミナーを開催いたしました。当日の内容は、読売新聞に掲載いたしました。詳細は別紙 3 をご参照ください。

これに要した費用は 3,963,219 円でした。

(3) 薬剤師向け雑誌 レシピ(南山堂)に「地域医療とチーム医療」というテーマで杉浦賞の受賞者に順次定期掲載をお願いいたしました。

(4) 薬剤師向け雑誌 調剤と情報(じほう)に

- ・医療保険と介護保険のミニ知識（相違点一覧など）
 - ・在宅医療を取り巻く施設と職種
 - ・在宅患者に起こりうる問題把握とその対応
- 以上を掲載いたしました。

III. 事務報告

1. 役員

平成 24 年度末現在の役員氏名は下記の通りです。

役名	氏名	就任年月日	略歴
理事長	杉浦 昭子	2011. 9. 1	スギホールディングス株式会社 代表取締役副社長
理事	荒井 恵二	〃	スギメディカル株式会社 代表取締役社長
	井口 昭久	2012. 9. 5	愛知淑徳大学 健康医療科学部 スポーツ・健康医科学科教授 名古屋大学 名誉教授
	塩川 満	2011. 9. 1	総合病院 聖隷浜松病院（地域医療支援病院）薬剤部長
	高瀬 義昌	〃	医療法人社団 至高会 たかせクリニック 院長 公益財団法人 日米医学医療交流財団 常務理事
	中井 加代子	2012. 9. 5	公益社団法人 愛知県看護協会会長
	鍋島 俊隆	2011. 9. 1	名古屋大学 名誉教授 名城大学 比較認知科学研究所所長
	野本 慎一	〃	京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 教授
	東口 高志	〃	藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座 教授
	久常 節子	〃	国際医療福祉大学大学院 副大学院長 元 公益社団法人 日本看護協会 会長
	山村 恵子	2012. 9. 5	愛知学院大学 臨床薬剤学講座教授
監事	神谷 誠	2011. 9. 1	税理士法人トーマツ 名古屋事務所長
	平野 晃	〃	公認会計士 元 新日本有限責任監査法人 シニアパートナー

(注)理事長を除いて五十音順、敬称略

2. 評議員

平成 24 年度末現在の評議員氏名は下記の通りです。

役名	氏名	就任年月日	略歴
評議員会長	杉浦 広一	2011. 9. 1	スギホールディングス株式会社 代表取締役社長
評議員	上野 桂子	〃	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 理事 社団法人 全国訪問看護事業協会 常務理事
	唐澤 祥人	〃	唐澤医院 院長 元 社団法人日本医師会 会長(第17代)
	木村 隆次	〃	有限会社 プロマックス 代表取締役 ハロー薬局 代表
	佐野 けさ美	〃	スギメディカル株式会社 看護事業開発部長 日本在宅看護学会 副理事長
	白澤 政和	〃	桜美林大学大学院老年学研究科 教授 日本学術会議 会員
	鈴木 匡	2012. 3. 14	名古屋市立大学薬学部 臨床薬学教育研究センター 教授
	水流 聡子	2011. 9. 1	東京大学大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻 医療社会システム工学寄附講座 特任教授
	豊田 百合子	2012. 3. 14	大阪保健福祉専門学校 副学校長 元 公益社団法人 大阪府看護協会 会長
	橋本 俊明	2011. 9. 1	一般財団法人 サービス付き高齢者向け住宅協会 会長
伴 信太郎	2012. 3. 14	名古屋大学大学院医学系研究科 総合診療医学講座 教授	

(注)評議員会長を除いて五十音順、敬称略

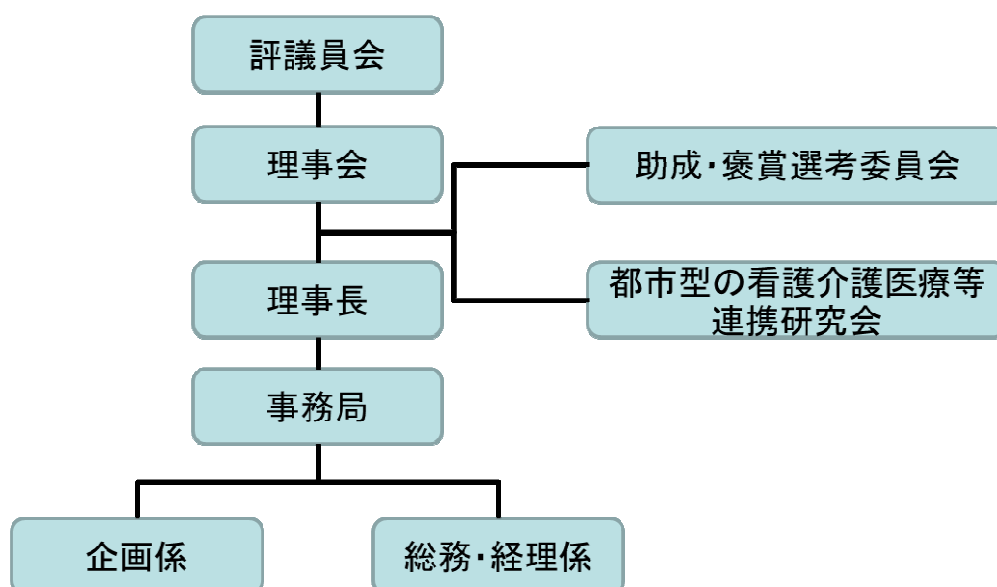
3. 事務局組織

平成 24 年度末現在における財団・事務局組織は以下の通りです。

(1) 職員構成

事務局 長 1 名
企 画 係 1 名
総務・経 理 係 1 名

(2) 組織図



4. 理事会

平成 24 年度(2012 年)における理事会は次の通り6回開催した。

開催年月日	議 事	摘 要
2012 年 3 月 1 日(木) (臨時理事会)	第2回定時評議員会の開催日時並びに決議事項について	書面決議
2012 年 3 月 14 日(水) (第3回定例理事会)	決議事項 第 1 号議案 「平成 23 年度(第 1 期)事業報告書」「決算報告書」等の承認 第 2 号議案 「研究会の発足」の承認	
2012 年 5 月 15 日(火) (臨時理事会)	平成 24 年 5 月 9 日に開催された第 2 回選考委員会にて決定された杉浦地域医療振興賞及び杉浦地域医療助成金の候補を承認する。	書面決議

開催年月日	議 事	摘 要
2012年8月3日(金) (臨時理事会)	杉浦広一、杉浦昭子よりの寄附の申し出の承諾について	書面決議
2012年9月5日(水) (臨時理事会)	決議事項 第1号議案 財産の基本財産への変更の承認 定款第8条第2項第3号により、先般杉浦ご夫妻より寄付いただいた下記有価証券を基本財産とするもの。 第2号議案 第2回杉浦地域医療振興助成金及び振興賞募集要項の承認	
2012年12月13日(水) (第4回定例理事会)	決議事項 第1号議案 「平成25年度(第3期)事業計画書及び予算書」の承認の件	

5. 評議員会

平成24年度(2012年)における評議員会は次の通り4回開催した。

開催年月日	議 事	摘 要
2012年3月8日(木) (臨時評議員会)	定款第16条第1項を下記の通り変更する	書面決議
2012年3月14日(木) (第2回定時評議員会)	1 報告事項 「平成23年度(第1期)事業報告書」の報告 2 決議事項 第1号議案 平成23年度(第1期)貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録の承認 第2号議案 評議員の選任	

開催年月日	議 事	摘 要
2012年9月5日(水) (臨時評議員会)	1 決議事項 第1号議案 定款変更の承認 下記を主たる要因として定款を 変更する。 第2号議案 新任理事の選任 第3号議案 重要な財産の譲受の承 認	
2012年12月13日 (木) (臨時評議員会)	決議事項 第1号議案 「平成25年度(第3 期)事業計画書及び予算書」の承認の 件	

6. 財団パンフレットの作成

財団の概要を紹介するパンフレットを追加いたしました。2,000部製作しました。要した費用は17,600円でした。

7. 財団ホームページの保守

これに要した費用は、853,000円でその内訳は、

①保守費 451,000円(予算 160,000円)

②月額運営費 402,000円(予算 402,000円)

でした。

以上

事業報告の附属明細書

平成24年度(第2期)の事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書について、特に「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成していません。

平成25年3月

一般財団法人杉浦地域医療振興財団